

III

履修について

● 総論

- ・教養科目を学ぶ意義
- ・履修登録
- ・授業
- ・単位
- ・試験
- ・成績
- ・GPA

● 学部学科

- ・看護学部看護学科
- ・リハビリテーション学部
リハビリテーション学科

● アカデミック・

アドバイジング制度

● 学内ポータルサイト

UNIVERSAL PASSPORT
(UNIPA)

● オフィスアワー

■ 教養科目を学ぶ意義

本学の建学の精神に「豊かな人間性を育てる教養教育」があります。そして両学部の養成人材像には「人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理性を備える」ことがうたわれています。

教養科目を学ぶことは、人間とは何か、社会とは何かといった根本的な問いに向き合うきっかけを与えてくれます。教養科目を学ぶことで、社会生活をする上で必要な倫理観をはじめ、幅広い知識と柔軟な思考力、変化に対応する力を身につけることができ、人間として成長することができます。専門知識だけではない、向き合う患者の心を知り、寄り添うことができる医療人を目指すことを期待しています。

■ 履修登録

1 履修登録

前期・後期の授業開始前に、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続きのことです。この手続きを行わないまま授業に出席しても、単位の修得は認められません。

履修登録は、選択科目・自由科目について登録してください。なお、必修科目は事前に登録手続き済みですから、確認してください。

登録方法には、履修登録用紙による登録と、Web 履修登録があり、学部により異なります。

2 履修登録の流れ

1 (オリエンテーション)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育課程（カリキュラム）及び履修登録方法について説明を受けます。 ■ 各自『シラバス』及び『学生便覧（履修について）』を参考に、履修計画を立てます。
2 (履修登録)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各学部指定された方法にて各自履修登録をします。 なお、Web 履修登録の場合、登録確定後は、「履修内容一覧」（時間割）を各自印刷の上、大切に保管してください。
3 (授業開始・ 変更登録期間)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登録した科目の変更（削除）が必要な場合は、変更登録期間（授業開始日から2週間以内）に登録内容の変更を行ってください。 ■ 変更登録期間中の授業についても、規定の授業回数に含まれます。履修を考えている科目には、必ず出席してください。 ■ 変更登録期間後の変更は一切できません。

※聴講科目については、指定期日までに届出を行ってください。（聴講を希望する場合は、事前に担当教員及び事務局に申し出てください。）

申請手続きは学部によって異なりますので、オリエンテーション時の学修指導をよく聞いてください。

3 クラス編成

授業科目によっては、クラス分けがあり、どのクラスに所属するのか指定される授業科目があります。所属するクラスは事前に掲示板への掲示もしくは学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) にてお知らせ（以降、「掲示」と言う）しますので、各自確認の上、履修登録を行ってください。

Ⅲ 履修について

4 再履修

再履修とは、前年度に履修登録をしたものの、成績評価において不合格となり、単位を修得できなかった授業科目を再度履修することをいいます。必修科目が不合格となった場合、必ず再履修する必要があります。

選択科目の場合は、他の履修科目と時間割が重複しない限り、再履修することができます。

5 履修登録ができない授業科目

他学部の授業科目	自分の所属学部以外の学部で開講されている科目は、履修登録できません。(※)
上級年次の授業科目	自分の在籍年次より上級年次に開講されている科目は、履修登録できません。
単位修得済の授業科目	既に単位を修得した科目は、履修登録できません。
同一時限の重複する授業科目	同一時限に開講される科目を重複して履修登録することはできません。

(※) 教養科目を再履修する場合で、自分の所属学部での再履修が難しい場合には、所属学部以外の学部での同一科目の再履修を認めることがあります。

(※) 上記以外でも履修規程等で定められた要件を満たしていない場合は、履修登録することはできません。

授業

1 学期

本学では、学年を前期・後期の2学期に分けています。

前期：4月1日から9月30日まで

後期：10月1日から3月31日まで

※学年・学部により、日程が変更になる場合があります。

2 授業時間

授業は、1時限あたり90分で行われます。

時限	時間
1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
3時限	13：00～14：30
4時限	14：40～16：10
5時限	16：20～17：50

3 授業科目

(1) 開講期

授業科目は、開講される期間別に次のとおりとなります。

半期開講科目	前期または後期のいずれかの学期で授業が行われ、成績が評価される授業科目
通年開講科目	前期・後期を通して授業が行われ、成績が評価される授業科目
集中講義科目	一定の期間に集中的に授業が行われ、成績が評価される授業科目

(2) 開講年次

授業科目は、それぞれ開講年次が定められています。これは、各授業科目を体系的に学修するためです。

(3) 授業科目の履修上の区分

必修科目	必ず履修しなければならない授業科目
選択科目	必修科目以外の授業科目
自由科目	卒業要件の対象外の授業科目

4 受講に関すること

(1) 出席

出席の確認は、授業開始時に学生証をカードリーダーで読み取ること、または出席簿により行われます。

出席に関して不正行為を行った場合は、懲戒処分の対象となります。

なお、学生証と他の IC カードやロッカーキーをネームホルダーと一緒に入れないでください。カードリーダーの読み取りが行われず出席に反映しない場合があります。

(2) 欠席

欠席には、公認欠席と一般欠席があります。

①公認欠席

本学公認欠席規程を参照の上、「公欠願」（所定様式）に信憑書類を添付し、出校後ただちに事務局窓口へ提出してください。

②一般欠席

公認欠席以外は全て一般欠席となります。

欠席時間数が規定の時間数を超える場合には、単位は認定されません。

授業の出欠状況については、UNIPA 出欠状況を確認してください。

授業の出欠に関して問い合わせたい場合には、原則として、指示された期間内に「出欠状況確認届」を事務局へ提出してください。特別な理由により期間を過ぎてからの申し出については、教務委員会学部分科会及び担当教員にて審議して決定します。

また、授業で配布する資料は、事務局で配布はしません。

Ⅲ 履修について

(3) 休講連絡等

休講・補講・教室変更等、授業全般に関する連絡事項は、UNIPAへ掲示します。原則として、掲示している内容に関する電話での問い合わせは受け付けていません。

なお、災害等による授業・試験の取扱いについては、「災害等による授業・試験の取扱いについて」を参照してください。

5 遠隔授業

授業には、教室で実施する対面授業の他に、遠隔授業があります。遠隔授業には、リアルタイムで配信されるオンライン授業と、録画された授業を視聴するオンデマンドの授業があります。遠隔授業の場合は、自宅のパソコンやスマートフォンで受講することができます。なお、遠隔授業における授業形態・出席の確認方法は、科目ごとに異なりますので、科目担当教員の指示に従ってください。

■ 単位

1 単位制とは

学修時間を表す名称で、各授業科目について所定の時間を履修し、成績評価において合格することで、その科目ごとに定められている単位を修得していく制度です。

2 単位の計算

授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修（授業時間＋授業外の学修）を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算します。

講義・演習	15時間～30時間の授業時間をもって1単位とする。
実験・実習・実技	30時間～45時間の授業時間をもって1単位とする。

3 単位の認定

履修登録をした授業科目の単位の認定及び成績評価は、シラバスに記載された方法で行います。

4 他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の単位認定

本学では、教育上有益と認めるときは、本学在学中に他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目の単位について、4年課程は60単位を超えない範囲で、本学における履修により修得したものと認定されます。

審議の結果、認定された場合は、本学での修得単位として算入できます。

《学都仙台単位互換ネットワーク》

本学では、学都仙台単位互換ネットワークに参加しています。

学都仙台単位互換ネットワークとは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍す

る学生が、他の参加大学等の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。

この制度により、各校が提供する専門性の高い科目、特色のある科目の受講が可能となり、意欲のある学生の学修機会が大きく広がっています。

本制度の利用を希望する学生は、事務局窓口にお問い合わせ、または【学都仙台コンソーシアム Web ページ (http://www.gakuto-sendai.jp/for_s/index.html)】を参照してください。出願手続き、提供科目等を確認できます。

5 既修得単位の認定

本学への入学前に、大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位、大学、専門職大学又は短期大学以外の教育施設等における学修を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものと認定を希望する場合は、所定の期日までに以下の書類を事務局に提出してください。既修得単位等の認定については、学則第30条及び「大学以外の教育施設等における学修及び入学前の既修得単位等認定に関する取扱規程」を参照してください。

提出書類をもとに、本学教務委員会が審議し、本学における授業科目と同等の内容であると判断した場合は、単位を認定します。対象科目については、看護学部及びリハビリテーション学部では「教養科目」です。

※なお、申請は原則として入学時とします。

[提出書類]

- ① 本学指定の「単位認定願」
- ② 出身大学等の「成績証明書」(修得した単位を証明できるもの)
- ③ 出身大学等の「シラバス」(写し)(※)

※該当科目のページ及び大学名・履修年度が確認できるページの写しのみ提出。冊子のまま提出しないでください。

■ 試験

シラバスに記載された試験は、履修規程記載のように筆記試験以外にも様々な方法で行うことがあります。

(1) 試験の種類

区分	概要
定期試験	当該授業科目の学期末に期間を定めて実施します。
随時試験	規定の授業回数終了後、定期試験の期間以外に実施します。

(2) 試験の公示

定期試験・随時試験の日時、場所、試験方法等については、試験実施の2週間前までに掲示します。また、最終授業終了後、当該科目の出席状況に基づき、受験資格の有無を各自確認してください。

(3) 試験時間

試験のうち筆記試験は原則として1時限あたり60分で行われます。口頭試験、実技試験等の試験時

Ⅲ 履修について

間は個別に設定します。なお、試験の時間割は、通常授業の曜日・時間とは異なりますので、必ず事前に掲示を確認してください。

課題提出等による試験は提出期限が設定されます。

(4) 試験の欠席

試験については、極力、欠席することのないよう、体調管理等に努めてください。やむを得ず欠席となった場合は、(5) 追試験、(6) 再試験の対応となりますので、予め確認してください。

(5) 追試験

やむを得ない事情で試験を欠席する場合は原則として事前に連絡し、出校後ただちに「追試験願」を事務局窓口へ提出してください。

なお、あらかじめ欠席がわかる場合は、事前に「追試験願」を事務局窓口へ提出してください。追試験に関する詳細は、履修規程に定めています。

※「追試験願」には次の信憑書類を添付の上、提出してください。

- ① 傷病の場合 学校感染症罹患証明書、または医師の診断書
- ② 忌引きの場合 会葬礼状等 ※逝去日の記載があるものに限る
- ③ 罹災、公共交通機関の遅れ、その他 それぞれの証明書類

なお、採用試験以外の就職活動や課外活動で欠席の場合は、原則として追試験の対象とはなりません。

(6) 再試験

再試験に関する詳細は、履修規程に定めています。

再試験の受験を許可された学生は、「再試験願」に1科目につき受験料2,000円を添え、期日までに事務局窓口へ提出してください。原則として、再試験当日の申込は認めません。

なお再試験とは不可(D)と判定された成績の再評価です。再評価の対象はシラバスに記載されている評価方法全体です。

(7) 受験資格

次に該当する学生は、受験資格が認められませんので注意してください。

- 当該授業科目の履修登録をしていない者
- 当該授業科目の一般欠席時間数が総時間数の3分の1を超える者
- 当該授業科目の一般欠席時間数と公認欠席時間数を合計した時間数が、総時間数の2分の1を超える者

(8) 筆記試験受験上の注意事項

- 試験の詳細については、試験監督者の指示に従ってください。
- 試験時間の10分前までに入室し、あらかじめ試験教室内に掲示されている座席表で確認し着席してください。
- 試験開始から20分を超える遅刻をした者は受験が認められません。
- 試験開始から30分間は退室することができません。なお、退室時は、荷物をすべて持ち、周囲の迷惑にならないよう静かにしてください。
- 体調不良等健康上の問題で、試験教室を変更したい場合は、事務局または試験監督者に申し出

てください。試験監督者が指示する場合があります。

- 指示された場所に、学籍番号と氏名が見えるように学生証を置いてください。また、追試験・再試験の場合には、「追試験願」または「再試験願」の学生控も机の上に置いてください。
 - ・学生証を持参していない者は、試験開始前までに、事務局窓口にて仮学生証の発行を申請してください。
 - ・仮学生証は、発行当日に限り使用することができます。
- 持ち物について
 - ・学生証、筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ）、その他試験で使用を許可された物以外は、すべてかばん等の中に入れてください。
 - ・追試験、再試験の場合は、「追試験願」または「再試験願」の学生控を持参してください。
 - ・試験中の物の貸し借りは認めません。
 - ・携帯電話、スマートフォン、腕時計型の情報端末等は電源を切り、かばん等の中に入れてください。
 - ・携帯電話、スマートフォン、腕時計型の情報端末等を時計・電卓代わりに使用することは、不正行為に該当するため認められません。
- 答案用紙には、学籍番号、氏名及びその他必要事項を記入してください。記入のない答案は無効となりますので注意してください。

[不正行為の種類]

- ・他人に答案、論文（レポート）を作成させること、またはその代筆
- ・カンニングペーパー等（身体、机及び壁等への書き込み含）の使用
- ・持ち込みが許可されていない物（ノート等）の使用
- ・他人の答案からの書き写し
- ・携帯電話、スマートフォン、腕時計型の情報端末等の使用
- ・その他不正と認められる行為

[不正行為に対する措置]

不正行為を行った者は、学則第43条により懲戒するほか、履修規程第10条に基づく措置が講じられます。

(9) レポートについて

- レポート提出時の注意事項
 - ① レポートの作成・提出については、担当教員の指示に従ってください。指定された提出先に提出すること。
 - ② 本文の他、必ず表紙をつけてください（見本参照のこと）。
 - ③ 指定された場合を除き、用紙はA4版縦、文字は横書きとしてください。
 - ④ 左上をホチキスで留めてください。
 - ⑤ 締切日時を過ぎたレポートについては、一切受理しません。

〈レポート表紙 見本〉

授業科目名
テーマ(課題)

担当教員名
提出年月日

学部・学年・学籍番号
氏名

■ 成績

1 成績

成績は、試験だけではなく、授業の受講態度等も勘案し、総合的に評価されます。

各授業科目の評価方法は、シラバスに記載されていますので確認してください。

(1) 成績評価

成績評価は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学部が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

(2) 成績照会

成績評価及びGPAは、UNIPAの【成績照会】画面で確認します。

2 成績への問合せについて

成績評価が不合格となり、成績評価が間違えていると思われる正当な理由がある場合に限り、問合せをすることができます。

可否の掲示後、所定期間内に事務局窓口で手続きを行ってください。

なお、手続き期間については、掲示にて通知します。

3 留年

在学年次に配当されているすべての必修科目の単位を修得できなかった場合は、留年となります。

また、卒業年次に留年し、次年度前期において、卒業に必要な単位を修得した場合は、学則第37条に則り、前期末(9月)の卒業が認められます。

■ GPA

1 GPA 制度とは

GPA とは、グレード・ポイント・アベレージ (Grade Point Average) の略で、成績評価制度の一つです。単位修得という学修の「量」だけでなく、その「質」も重視するものです。

GPA は成績評価を明確にすることにより、自分自身の学修達成度を把握することで学修意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と学生支援に資することを目的としています。

2 GPA の算出方法

(1) 成績評価は、下表のとおり、秀 (AA)、優 (A)、良 (B) 及び可 (C) を合格とし、不可 (D)、評価不能 (E) を不合格とします。また、それぞれの成績評価に対してグレード・ポイント (以下「GP」という) を付与します。

判定	成績評価	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	4
	優 (A)	3
	良 (B)	2
	可 (C)	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	0
	評価不能 (E)	0

(2) GPA は、履修登録した各授業科目の単位数に当該授業科目の GP を乗じた値を、履修登録した全授業科目について総計し、その値を履修登録した授業科目の総単位数で除して算出します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した各授業科目の単位数} \times \text{当該科目の GP の総計}}{\text{履修登録した授業科目の総単位数 (※不可・評価不能を含む)}}$$

【GPA 算出例】

科目名	点数	成績評価	単位数	GP	単位数 × GP
○○○○	95 点	秀 (AA)	2	4	2 × 4 = 8
○○○○	86 点	優 (A)	1	3	1 × 3 = 3
△△△△	50 点	不可 (D)	1	0	1 × 0 = 0
□□□□	73 点	良 (B)	1	2	1 × 2 = 2
××××	放棄	評価不能 (E)	1	0	1 × 0 = 0
総計		—	6 単位 (※)	—	13ポイント

(※) 不合格 (不可・評価不能) 科目の単位数も含まれます。

$$\text{GPA} = \text{合計 GP}13 \text{ポイント} \div 6 \text{単位} \div 2.17 \text{ (小数点第3位を四捨五入)}$$

Ⅲ 履修について

【GPA 算出時の注意点】

(1) GPA 算出対象外科目

履修登録した科目のうち、以下の科目は GPA の計算式に入りません。

- ①他大学等で単位修得し、本学が認定した科目
- ②「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」により他大学で修得した科目
- ③履修登録変更期間内に履修取消した科目（[4](#)参照）
- ④学部等が定めた科目（学部等が定めた場合のみ）

(2) 再履修をして合格した場合

再履修をして合格した場合、再履修によって得た成績評価と単位数は GPA 計算式に算入するものとし、当該科目において過去についていた不合格の評価（GP = 0）及び単位数は、合格した学期以降の GPA 計算式から除外するものとします。

ただし、過去に算出された GPA（学期・年度）の値はさかのぼって変更されません。

3 GPA の種類

GPA の種類には、算出を対象とする期間に応じて、各年度の各学期で算出する「学期 GPA」、各年度で算出する「年度 GPA」、在学中の全期間を通算して算出する「通算 GPA」があります。

4 変更登録期間

履修登録した選択科目について、授業に出たものの、途中で履修を中止したい場合は、変更登録期間中に履修を取り消すことができます。しかし、登録期間中に取り消さなかった場合は成績評価の対象となります。

取り消さずに途中で履修を中止した場合、履修を中止した科目も GPA の計算式に入るため、成績評価は E 評価（GP = 0）となってしまう、GPA の数値が低下しますので、安易な履修放棄をしないように注意してください。

5 GPA の活用

GPA は成績を数値化し、客観的にみることができます。各自の GPA を常に認識し、学修計画を立てるようにしてください。

GPA は以下の用途にも利用する場合があります。

- ①成績優秀者の表彰
- ②履修上限単位数
- ③奨学金の審査
- ④就職の推薦
- ⑤学修指導
- ⑥退学勧告

看護学部看護学科

1 教育課程（カリキュラム）

看護学部看護学科の教育課程（カリキュラム）は、以下のとおりです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次								単位数				
			1年		2年		3年		4年		必修	選択			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	15	○									1		
	英語Ⅰ	8	○										1		
	英語Ⅱ	15		○									1		
	英語Ⅲ	15							○					1	
	情報処理Ⅰ	15	○										1		
	情報処理Ⅱ	15		○									1		
	ICT活用技術	15			○									1	
	人文科学系	哲学	8					○						1	
	生命倫理学	8	○											1	
	心理学	8		○										1	
	教育心理学	8					○							1	
	宗教と民族	8	○											1	
	人間関係論	8	○											1	
	社会科学系	法学入門	8				○							1	
	日本国憲法	15								○				2	
	経済と政策	8				○								1	
	教育学概論	8							○					1	
	社会学	8	○											1	
	社会保障論	8		○										1	
	自然科学系	物理学	8	○										1	
	生物学	8	○											1	
自然環境と災害	8				○								1		
統計学入門	8			○									1		
健康スポーツⅠ	8			○									1		
健康スポーツⅡ	15				○								1		
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	15	○										2	
	人体構造と機能Ⅱ	15	○											2	
	人体構造と機能Ⅲ	15		○										2	
	生化学	8	○											1	
	微生物学	8	○											1	
	栄養学	8		○										1	
	病理学	8		○										1	
	病態治療学Ⅰ	15		○										2	
	病態治療学Ⅱ	15		○										2	
	病態治療学Ⅲ	15		○										2	
	病態治療学Ⅳ	15			○									2	
	看護薬理学	15		○										2	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	8			○								1	
	疫学 *	8			○									1	
	保健情報論 *	15				○								2	
保健医療福祉行政論	15				○								2		
チームアプローチ入門	15				○								1		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	15	○										2	
	看護倫理	8		○										1	
	看護過程論	15		○										2	
	基礎看護技術Ⅰ	8	○											1	
	基礎看護技術Ⅱ	30	○											2	
	基礎看護技術Ⅲ	15		○										1	
	基礎看護技術Ⅳ	30		○										2	

Ⅲ 履修について

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次								単位数			
			1年		2年		3年		4年		必修	選択		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門科目	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論Ⅰ	8			○							1	
		地域・在宅看護学概論Ⅱ	8			○							1	
		地域・在宅看護学援助論	15					○					2	
		地域・在宅看護学援助方法	15						○				1	
		地域包括ケア論	8						○				1	
	成人看護学	成人看護学概論	8		○								1	
		成人看護学援助論	15			○							2	
		成人看護学援助方法	30				○						2	
	老年看護学	老年看護学概論	8			○							1	
		老年看護学援助論	15			○							2	
		老年看護学援助方法	15				○						1	
	小児看護学	小児看護学概論	8			○							1	
		小児看護学援助論	15			○							2	
		小児看護学援助方法	15				○						1	
	母性看護学	母性看護学概論	8			○							1	
		母性看護学援助論	15			○							2	
		母性看護学援助方法	15				○						1	
	精神看護学	精神看護学概論	8			○							1	
		精神看護学援助論	15			○							2	
		精神看護学援助方法	15				○						1	
	看護の基盤と応用	看護過程展開方法	15			○							1	
		家族支援論	8			○							1	
		救急救命学	15						○					2
		クリティカルケア看護学	8							○				1
		周術期看護論	15			○							2	
		リハビリテーション論	15							○				2
		緩和ケア論	8			○							1	
	看護の統合と実践	医療安全管理論	8							○			1	
		災害看護論	15							○			2	
		看護管理論	8							○			1	
		国際看護論	8							○				1
		スタートアップセミナー	15		○								1	
		キャリアデザインセミナー	8				○						1	
	看護研究Ⅰ	8						○				1		
	看護研究Ⅱ	15								○		1		
	看護学総合講義	15									○	2		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	40h	○									1		
	基礎看護学実習Ⅱ	80h		○								2		
	地域・在宅看護学実習Ⅰ	40h			○							1		
	地域・在宅看護学実習Ⅱ	40h						○				1		
	領域横断看護実習	120h				○						3		
	成人看護学実習	120h						○				3		
	老年看護学実習	120h						○				3		
	小児看護学実習	80h						○				2		
	母性看護学実習	80h						○				2		
	精神看護学実習	80h						○				2		
	統合実習	120h							○			3		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論 *	8			○								1	
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ *	15					○						2	
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ *	15						○					2	
	公衆衛生看護学援助方法 *	15							○				1	
	公衆衛生看護管理論 *	15							○				2	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ *	40h						○					1	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ *	120h								○			3	

卒業要件単位数 124単位以上（保健師課程 135単位以上）

*の科目は保健師課程を選択した場合、必修科目として履修。ただし、「公衆衛生看護学概論」については、看護師課程のみ履修する学生も選択できます。

2 卒業要件

卒業には、次の要件を満たさなければなりません。

(1) 看護学部に4年以上在学すること。

- 休学期間は在学期間を含めません。
- 在学期間は8年を超えることができません。

(2) 卒業に必要な単位を修得すること

必修科目115単位及び選択科目9単位以上、合計124単位以上を「教養科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」から以下のとおり修得すること。

科目区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
教養科目	15単位	5単位以上	20単位以上
専門基礎科目	24単位	4単位以上 * 「疫学」、「保健情報論」、「救急救命学」、 「クリティカルケア看護学」、「リハビリ テーション論」、「国際看護論」、「公衆衛生 看護学概論」から選択	104単位以上
専門科目	76単位		
合計	115単位	9単位以上	124単位以上

3 卒業要件充足に伴う資格と学位

看護学部の所定の単位を修得し卒業要件を満たすと、看護師国家試験の受験資格が得られるとともに、学士（看護学）の学位が与えられます。

4 履修登録単位数の上限

看護学部では、学生の皆さんが各年次にわたって適切に授業科目を履修できるように、年間の履修登録単位数の上限を50単位と定めています。

5 実習

(1) 実習の履修要件

以下の実習科目を履修するためには、次の要件を満たさなければなりません。

科目名	履修要件
基礎看護学実習Ⅱ	「看護学概論」、「基礎看護技術Ⅰ」、「基礎看護技術Ⅱ」及び「基礎看護学実習Ⅰ」の単位を修得していること。また、「看護過程論」、「基礎看護技術Ⅲ」の単位を修得する見込みがあること。
地域・在宅看護学実習Ⅰ	1年次に配当されている必修科目の単位をすべて修得し、「地域・在宅看護学概論Ⅰ」の単位を修得する見込みがあること。
領域横断看護実習	1年次に配当されている必修科目の単位をすべて修得し、「看護過程展開方法」の単位を修得していること。

Ⅲ 履修について

成人看護学実習	1・2年次に担当されている必修科目の単位をすべて修得していること。
老年看護学実習	
小児看護学実習	
母性看護学実習	
精神看護学実習	
地域・在宅看護学実習Ⅱ	1～3年次に担当されている必修科目の単位をすべて修得していること。
統合実習	1～3年次に担当されている必修科目の単位をすべて修得し、「医療安全管理論」、「看護管理論」の単位を修得していること。
公衆衛生看護学実習Ⅰ	1・2年次に担当されている必修科目及び「疫学」、「保健情報論」、「公衆衛生看護学概論」の単位をすべて修得し、保健師課程を選択の上、「公衆衛生看護学援助論Ⅰ」の単位を修得していること。
公衆衛生看護学実習Ⅱ	1～3年次に担当されている必修科目（保健師課程の必修科目含む）の単位をすべて修得し、「看護管理論」、「地域・在宅看護学実習Ⅱ」、「公衆衛生看護学援助方法」の単位を修得していること。

(2) 実習の成績評価

実習科目は、各科目総時間数の5分の4の出席時間数をもって評価の対象とします。成績は、実習記録、課題、実習態度などを総合的に判断して評価されます。

(3) 補習実習

以下の事由により実施します。

補習実習	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実習時間不足の場合 欠席等により、所定の実習時間数が不足し、担当教員及び教務委員会が必要と認める場合
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実習内容が合格基準に達していない場合 実習の評価が合格基準に達しない場合で、担当教員と教務委員会が必要と認める場合

①成績評価

補習実習の評価については、学部の内規に基づきます。

なお、補習実習は原則として各科目1回の実施とします。

②費用

補習実習（学内・臨地）を受ける場合は、「補習実習願」に1科目につき2,000円の補習実習料を添え、事務局窓口へ提出してください。

なお、臨地で実習をする場合は、補習実習料の他、施設利用料を徴収する場合があります。

6 進級

在学年次に配当されているすべての必修科目の単位を修得した場合に、在学年次の1年次上の学年に進級することができます。

7 留年

(1) 在学年次に配当されているすべての必修科目の単位を修得できなかった場合は、留年となります。

(2) 留年となった場合は、不合格となった必修科目を再度履修し、合格することで進級が認められます。なお、当該授業科目に定められた出席時間数を満たした上で評価の対象となりますので、授業への出席は必須です。

(3) 留年時には、すでに単位を修得している科目の聴講を勧めます。

8 取得できる資格

①看護師国家試験受験資格

卒業要件を満たすことで得られます。

②保健師国家試験受験資格（20人を上限とする選抜制）

卒業要件に加えて、専門基礎科目の選択科目から「疫学」「保健情報論」、専門科目の公衆衛生看護学（7科目12単位）を含む135単位以上修得することで得られます。

選抜時期／2年次後期末

選抜基準／2年次後期までの成績評価、面接試験及び志望理由書により保健師として活躍したいという意欲を総合的に判断します。

カリキュラムの詳細や選抜方法については、2年次進級時のオリエンテーションにて説明します。

※保健師免許取得後に、都道府県に申請することで第一種衛生管理者を取得することが可能です。

③養護教諭二種免許状申請資格（保健師免許取得後、都道府県に申請）

卒業要件及び②の保健師国家試験受験資格の要件に加えて、教養科目の選択科目から「日本国憲法」「健康スポーツⅠ」「健康スポーツⅡ」を修得し、135単位以上修得することが要件です。

②及び③の取得を目指す場合、卒業要件を満たすほか資格取得のための選択科目を履修する必要があります。履修規程、履修モデルを参考にして必要な科目を履修してください。

Ⅲ 履修について

9 履修モデル

【履修モデルⅠ】看護師を目指す履修モデル

科目区分	1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		
	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	1	英語Ⅱ	1	ICT活用技術	1		
		英語Ⅰ	1	情報処理Ⅱ	1				
		情報処理Ⅰ	1						
	人文科学系	生命倫理学	1	心理学	1				
		人間関係論	1						
	社会科学系	社会学	1	社会保障論	1			法学入門	1
		宗教と民族	1					経済と政策	1
	自然科学系	物理学	1			統計学入門	1	自然環境と災害	1
		生物学	1						
	専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	2	人体構造と機能Ⅲ	2			
人体構造と機能Ⅱ			2	栄養学	1				
生化学			1						
微生物学			1						
疾病の成り立ちと回復の促進				病理学	1	病態治療学Ⅳ	2		
				病態治療学Ⅰ	2				
				病態治療学Ⅱ	2				
				病態治療学Ⅲ	2				
			看護薬理学	2					
健康支援と社会保障制度					公衆衛生学	1	保健医療福祉行政論	2	
						チームアプローチ入門	1		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	2	看護倫理	1				
		基礎看護技術Ⅰ	1	看護過程論	2				
		基礎看護技術Ⅱ	2	基礎看護技術Ⅲ	1				
				基礎看護技術Ⅳ	2				
	地域・在宅看護学				地域・在宅看護学概論Ⅰ	1			
					地域・在宅看護学概論Ⅱ	1			
	成人看護学		成人看護学概論	1	成人看護学援助論	2	成人看護学援助方法	2	
	老年看護学				老年看護学概論	1	老年看護学援助方法	1	
					老年看護学援助論	2			
	小児看護学				小児看護学概論	1	小児看護学援助方法	1	
					小児看護学援助論	2			
	母性看護学				母性看護学概論	1	母性看護学援助方法	1	
					母性看護学援助論	2			
	精神看護学				精神看護学概論	1	精神看護学援助方法	1	
					精神看護学援助論	2			
	看護の基盤と応用				看護過程展開方法	1			
					家族支援論	1			
					周術期看護論	2			
					緩和ケア論	1			
	看護の統合と実践	スタートアップセミナー			1		キャリアデザインセミナー	1	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅱ	2	地域・在宅看護学実習Ⅰ		1		
						領域横断看護実習	3		
合計		21		26		26		17	

Ⅲ 履修について

【履修モデルⅡ】看護師・保健師・養護教諭（二種免許状）を目指す履修モデル

科目区分	1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		
	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	1	英語Ⅱ	1				
		英語Ⅰ	1	情報処理Ⅱ	1				
		情報処理Ⅰ	1						
	人文科学系	生命倫理学	1	心理学	1				
		人間関係論	1						
	社会科学系	社会学	1	社会保障論	1			法学入門	1
		宗教と民族	1					経済と政策	1
	自然科学系	物理学	1			統計学入門	1	自然環境と災害	1
		生物学	1			健康スポーツⅠ*1	1	健康スポーツⅡ*1	1
	専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	2	人体構造と機能Ⅲ	2			
人体構造と機能Ⅱ			2	栄養学	1				
生化学			1						
微生物学			1						
疾病の成り立ちと回復の促進				病理学	1	病態治療学Ⅳ	2		
				病態治療学Ⅰ	2				
				病態治療学Ⅱ	2				
				病態治療学Ⅲ	2				
健康支援と社会保障制度				看護薬理学	2				
						公衆衛生学	1	保健情報論*2	2
						疫学*2	1	保健医療福祉行政論	2
								チームアプローチ入門	1
専門科目		基礎看護学	看護学概論	2	看護倫理	1			
			基礎看護技術Ⅰ	1	看護過程論	2			
			基礎看護技術Ⅱ	2	基礎看護技術Ⅲ	1			
					基礎看護技術Ⅳ	2			
	地域・在宅看護学				地域・在宅看護学概論Ⅰ	1			
					地域・在宅看護学概論Ⅱ	1			
	成人看護学		成人看護学概論	1	成人看護学援助論	2	成人看護学援助方法	2	
	老年看護学				老年看護学概論	1	老年看護学援助方法	1	
					老年看護学援助論	2			
	小児看護学				小児看護学概論	1	小児看護学援助方法	1	
					小児看護学援助論	2			
	母性看護学				母性看護学概論	1	母性看護学援助方法	1	
					母性看護学援助論	2			
	精神看護学				精神看護学概論	1	精神看護学援助方法	1	
					精神看護学援助論	2			
	看護の基盤と応用				看護過程展開方法	1			
					家族支援論	1			
					周術期看護論	2			
					緩和ケア論	1			
	看護の統合と実践	スタートアップセミナー			1			キャリアデザインセミナー	1
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅱ	2	地域・在宅看護学実習Ⅰ		1		
						領域横断看護実習	3		
公衆衛生看護学						公衆衛生看護学概論*2	1		
合計		21		26		27	21		

*1 養護教諭二種免許状の申請にあたり単位の修得が必要です。

*2 保健師国家試験受験資格及び養護教諭二種免許状の申請にあたり単位の修得が必要です。

Ⅲ 履修について

■ リハビリテーション学部リハビリテーション学科

1 教育課程（カリキュラム）

リハビリテーション学部リハビリテーション学科の教育課程（カリキュラム）は、以下のとおりです。

【理学療法学専攻】

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次								単位数				
			1年		2年		3年		4年		必修	選択			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	15	○										1	
	英語Ⅰ	8	○											1	
	英語Ⅱ	15		○										1	
	英語Ⅲ	15									○				1
	情報処理Ⅰ	15	○											1	
	情報処理Ⅱ	15		○										1	
	ICT活用技術	15			○										1
	人文科学系	哲学	8	○										1	
	生命倫理学	8					○							1	
	心理学	8		○										1	
	教育心理学	8			○									1	
	宗教と民族	8		○											1
	人間関係論	8	○											1	
	社会科学系	法学入門	8		○									1	
	日本国憲法	8		○											1
	経済と政策	8		○										1	
	教育学概論	15				○								2	
	社会学	8		○											1
	社会保障論	8		○											1
	自然科学系	物理学	8	○										1	
	生物学	8	○											1	
自然環境と災害	8				○								1		
統計学入門	8			○									1		
健康スポーツⅠ	8	○												1	
健康スポーツⅡ	15				○									1	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	○										2	
	解剖学Ⅱ	15		○										2	
	解剖学演習	15	○											1	
	解剖学実習	20		○										1	
	生理学Ⅰ	15		○										2	
	生理学Ⅱ	15			○									2	
	生理学実習	20				○								1	
	運動学総論	8	○											1	
	運動学演習Ⅰ	15		○										1	
	運動学演習Ⅱ	15		○										1	
	運動学実習	20			○									1	
	機能解剖学実習	20				○								1	
	臨床運動学	15				○								2	
	人間発達学	8		○										1	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	8			○								1	
	病理学	8				○								1	
	小児科学	8				○								1	
	老年学	8						○						1	
	内科学	15			○									2	
	神経学	15				○								2	
	整形外科学	15			○									2	
精神医学	15			○									2		

Ⅲ 履修について

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次								単位数			
			1年		2年		3年		4年		必修	選択		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門基礎科目	臨床心理学	8				○						1		
	栄養学	8		○								1		
	救急救命学	8	○									1		
	公衆衛生学	8					○					1		
	言語聴覚療法概論	8				○						1		
	臨床検査・画像診断学	8					○					1		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15		○								2	
		チームアプローチ入門	15				○						1	
保健医療福祉連携論		15								○		1		
基礎理学療法学	理学療法学概論	15	○									2		
	トランスレーショナルセミナーⅠ	15		○								1		
	トランスレーショナルセミナーⅡ	15				○						1		
	トランスレーショナルセミナーⅢ	15						○				1		
	トランスレーショナルセミナーⅣ	15								○			1	
	理学療法研究法Ⅰ	8							○			1		
	理学療法研究法Ⅱ	30								○			2	
理学療法管理学	理学療法管理学	15							○			2		
理学療法評価学	理学療法評価学	8			○							1		
	基礎理学療法評価学実習	20			○							1		
	運動器障害理学療法評価学実習	20				○						1		
	神経障害理学療法評価学実習	20					○					1		
	内部障害理学療法評価学演習	15						○				1		
	理学療法評価学総合実習	20							○			1		
理学療法治療学	運動器障害理学療法学	15					○					2		
	運動器障害理学療法学演習	30						○				2		
	神経障害理学療法学	15					○					2		
	神経障害理学療法学演習	30						○				2		
	高次脳機能障害学	8						○				1		
	内部障害理学療法学	15					○					2		
	内部障害理学療法学演習	30						○				2		
	神経筋疾患理学療法学	15						○				2		
	小児理学療法学	8					○					1		
	物理療法学	15			○							2		
	物理療法学演習	15				○						1		
	義肢装具学	15					○					2		
	義肢装具学演習	15						○				1		
	日常生活活動学	15			○							2		
	日常生活活動学実習	20				○						1		
	予防理学療法学	15							○			2		
	スポーツ理学療法	30								○			2	
	疼痛理学療法	8									○		1	
	先端理学療法	8									○		1	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	45h		○								1	
臨床実習Ⅱ（評価実習）		180h						○				4		
臨床実習Ⅲ（総合実習）		315h								○		7		
臨床実習Ⅳ（総合実習）		315h								○		7		
地域リハビリテーション実習		45h						○				1		
地域理学療法学	地域理学療法学	8					○					1		
	地域理学療法学演習	15						○				1		
	生活環境論	8							○			1		
特別演習	理学療法学総合演習Ⅰ	15							○			1		
	理学療法学総合演習Ⅱ	15								○		1		
総計（卒業要件129単位以上）											125	15		

Ⅲ 履修について

【作業療法学専攻】

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次								単位数				
			1年		2年		3年		4年		必修	選択			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	15	○									1		
	英語Ⅰ	8	○										1		
	英語Ⅱ	15		○									1		
	英語Ⅲ	15							○					1	
	情報処理Ⅰ	15	○										1		
	情報処理Ⅱ	15		○									1		
	ICT活用技術	15			○									1	
	人文科学系	哲学	8	○									1		
	生命倫理学	8					○						1		
	心理学	8		○									1		
	教育心理学	8			○								1		
	宗教と民族	8		○										1	
	人間関係論	8	○										1		
	社会科学系	法学入門	8		○								1		
	日本国憲法	8		○										1	
	経済と政策	8		○									1		
	教育学概論	15				○							2		
	社会学	8		○										1	
	社会保障論	8		○										1	
	自然科学系	物理学	8	○									1		
	生物学	8	○										1		
	自然環境と災害	8				○							1		
	統計学入門	8			○								1		
	健康スポーツⅠ	8	○											1	
	健康スポーツⅡ	15				○								1	
	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	○									2	
		解剖学Ⅱ	15		○									2	
解剖学演習		15	○										1		
解剖学実習		20		○									1		
生理学Ⅰ		15		○									2		
生理学Ⅱ		15			○								2		
生理学実習		20				○							1		
運動学総論		8	○										1		
運動学演習Ⅰ		15		○									1		
運動学演習Ⅱ		15		○									1		
運動学実習		20				○							1		
機能解剖学実習		20					○						1		
臨床運動学		15					○						2		
人間発達学		8		○									1		
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		薬理学	8			○							1		
病理学		8					○						1		
小児科学		8					○						1		
老年学		8						○					1		
内科学		15				○							2		
神経学		15					○						2		
整形外科		15				○							2		
精神医学		15				○							2		
精神医学演習		15					○						1		
臨床心理学		8					○						1		
栄養学		8		○									1		
救急救命学		8	○										1		

Ⅲ 履修について

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次						単位数						
			1年		2年		3年		4年		必修	選択			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学	8					○				1			
		言語聴覚療法概論	8				○					1			
		臨床検査・画像診断学	8					○				1			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15		○								2		
		チームアプローチ入門	15				○						1		
		保健医療福祉連携論	15								○		1		
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	8	○									1		
		基礎作業学	8		○								1		
		基礎作業学演習Ⅰ	15					○					1		
		基礎作業学演習Ⅱ	15							○				1	
		トランスレーショナルセミナーⅠ	15		○								1		
		トランスレーショナルセミナーⅡ	15				○						1		
		トランスレーショナルセミナーⅢ	15						○				1		
		トランスレーショナルセミナーⅣ	15								○			1	
		作業療法研究法Ⅰ	8							○				1	
	作業療法研究法Ⅱ	30								○				2	
	作業療法管理学	作業療法管理学	15								○			2	
	作業療法評価学	作業療法評価学	8				○							1	
		身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	15				○							1	
		身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	15					○						1	
		精神障害作業療法評価学演習	15				○							1	
高次脳機能障害作業療法評価学演習		15					○						1		
作業療法治療学	作業療法理論	15						○					2		
	身体障害作業療法学Ⅰ	15						○					2		
	身体障害作業療法学Ⅱ	15							○				2		
	身体障害作業療法学演習	30						○					2		
	精神障害作業療法学	15						○					2		
	精神障害作業療法学演習	15							○				1		
	高齢期作業療法学	8						○					1		
	高齢期作業療法学演習	15							○				1		
	発達障害作業療法学	8						○					1		
	高次脳機能障害作業療法学	8							○				1		
	日常生活活動学	15						○					2		
	義肢装具学	15							○				2		
	福祉レクリエーション論	8								○				1	
先端作業療法	8									○			1		
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	90h		○									2		
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	225h						○					5		
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	45h						○					1		
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	405h								○			9		
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	405h								○			9		
地域作業療法学	地域生活支援論	8		○									1		
	地域作業療法学	8						○					1		
	職業リハビリテーション論Ⅰ	8							○				1		
	職業リハビリテーション論Ⅱ	8								○				1	
	生活環境論	8					○						1		
福祉住環境論	8								○				1		
特別演習	作業療法学総合演習Ⅰ	15							○				1		
	作業療法学総合演習Ⅱ	15									○			1	
総計（卒業要件129単位以上）											125	16			

Ⅲ 履修について

2 卒業要件

卒業には、次の要件を満たさなければなりません。

(1) リハビリテーション学部で4年以上在学すること。

- 休学期間は在学期間を含めません。
- 在学期間は8年を超えることができません。

(2) 卒業に必要な単位を修得すること。

必修科目125単位、教養科目の選択科目から2単位以上、専門科目の選択科目から2単位以上を修得し、129単位以上修得すること。

	理学療法学専攻	作業療法学専攻
教養科目	(必修) 18単位 (選択) 2単位以上	(必修) 18単位 (選択) 2単位以上
専門基礎科目	(必修) 41単位	(必修) 42単位
専門科目	(必修) 66単位 (選択) 2単位以上	(必修) 65単位 (選択) 2単位以上
卒業要件：129単位以上		

3 卒業要件充足に伴う資格と学位

リハビリテーション学部の所定の単位を修得し卒業要件を満たすと、理学療法士または作業療法士国家試験の受験資格が得られるとともに、学士（理学療法学）または学士（作業療法学）の学位が与えられます。

4 履修登録単位数の上限

リハビリテーション学部では、各年次にわたって適切に授業科目を履修するよう、年間の履修登録単位数の上限を以下のとおり定めています。

履修登録をする際には、原則として上限を超えないよう注意してください。

	履修登録単位数上限（年間）
理学療法学専攻	43単位
作業療法学専攻	43単位

5 臨床実習

(1) 臨床実習の履修要件

臨床実習の履修には、原則として当該臨床実習科目より前に配当される必修科目の単位をすべて修得していること。また、当該臨床実習科目と同時期に配当される必修科目の単位を、すべて修得する見込みがあることを履修要件とします。

(2) 臨床実習施設への実習生配置

臨床実習施設（以下「施設」という。）への実習生配置は、施設の専門性、実習生の適性、教育的効果及び施設の所在地等を勘案した上で配置します。

(3) 出席認定

臨床実習期間における出席認定は、出欠表に押印し、臨床実習指導者の承認を受けます。臨床実習の期間において、所定の日数の5分の1を超える欠席をした場合は、成績評価の対象となりません。なお、遅刻及び早退3回で、欠席1日とみなされます。

実習科目の単位及び所定の時間は、以下のとおりです。

理学療法学専攻		
実習科目	単位	時間
臨床実習Ⅰ（体験実習）	1	45
臨床実習Ⅱ（評価実習）	4	180
臨床実習Ⅲ（総合実習）	7	315
臨床実習Ⅳ（総合実習）	7	315
地域リハビリテーション実習	1	45
合 計	20	900

作業療法学専攻		
実習科目	単位	時間
臨床実習Ⅰ（体験実習）	2	90
臨床実習Ⅱ（評価実習）	5	225
臨床実習Ⅲ（地域実習）	1	45
臨床実習Ⅳ（総合実習）	9	405
臨床実習Ⅴ（総合実習）	9	405
合 計	26	1170

(4) 成績評価

成績評価は、臨床実習前後で評価します。実習記録や課題、症例報告会、OSCE（客観的臨床能力試験）や臨床実習指導者報告書の内容等を総合的に判断し、臨床実習の到達状況について評価されます。

(5) 補習実習及び成績評価

臨床実習において、様々な事由により、臨床実習の継続が困難となり中断または不合格となった場合には、その年度内で補習実習を課すことがあります。

(6) 臨床実習に係る費用について

臨床実習に係る費用は、交通費及び食費等の生活費を除き学費に含まれます。

ただし、補習実習については、別途費用が発生する場合があります。

6 進級

在学年次に配当されているすべての必修科目の単位を修得した場合に、在学年次の1年次上の学年に進級することができます。

Ⅲ 履修について

7 留年

- (1) 在学年次に配当されているすべての必修科目の単位を修得できなかった場合は、留年となります。
- (2) 留年となった場合は、不合格となった必修科目を再履修し、合格することで進級が認められます。再履修では、当該授業科目及び実習科目に定められた出席日数を満たし、所定の試験及び総合評価を受けなければなりません。

■ アカデミック・アドバイジング制度

本学では、皆さん一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮できるよう、アカデミック・アドバイジング制度を重要な柱の一つと位置づけています。大学生活は、学問の探究だけでなく、自分自身の将来を見据えた選択と成長の連続です。本学ではディプロマ・ポリシーの方針を「学修成果である五つの力を身に付け、所定の卒業要件単位の取得」と定め、履修指導、学修支援、学生支援等を入学時から卒業時まで継続して行っています。その担当（アカデミック・アドバイザー）を学科ごとに定めています。

アカデミック・アドバイザーは、皆さんの学問的な興味や目標に寄り添いながら、履修計画の立案、進路の相談、学習上の課題への対応など、さまざまな面でサポートします。どうか遠慮せず、積極的にアドバイザーとの対話を重ねてください。

本学のアカデミック・アドバイジング制度を活用し、充実した大学生活を送っていただけることを心より願っています。

各学部アカデミック・アドバイザー

学部学科	アドバイザー
看護学部看護学科	チューター教員
リハビリテーション学部リハビリテーション学科	学年担当教員

■ 学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA)

学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) とは、大学からの連絡を受ける掲示板、授業で使用する資料の閲覧・ダウンロード、レポートの提出、小テスト等を行うことができる、大学と学生の皆さんの双方向のシステムです。学修過程ならびに各種の学修成果を蓄積し、目標の達成度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけて改善する学修ポートフォリオとしても活用できます。

学生の皆さんは、インターネットに接続できる環境であれば場所を問わず UNIPA にアクセスすることができます。

使用方法は学生対象説明会等にて説明します。

- 学内では講義室・ラウンジ・図書館などで学内 Wifi を利用して使用できます。授業内に講義室で使用する際には、教員の指示に従ってください。印刷が必要な場合には、キャンパスごと以下の場所で使用することもできます。
 - 五橋キャンパス 202情報・語学室
 - 長町キャンパス A 棟 1 階学生ラウンジ

- その他
 - 公開されている資料等の取扱いは、担当教員の指示に従ってください。著作権法に触れることがあるので、画像等のデータを本学学生以外に広めることは、絶対にしないでください。

■ オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室等に在室する時間を設ける制度のことです。

- 相談内容

授業に出席して授業内容を理解する努力は当然必要ですが、それでも分かりにくいところや疑問点、勉強の方法などは、このオフィスアワーを積極的に活用して理解を深めてください。また、就職活動や将来の進路に関する相談にも積極的に利用してください。どの学部の教員を訪ねてもかまいません。各教員は指定時間に待機しています。

非常勤講師には、授業後の教室や講師控室で質問・相談をすることができます。

なお、学生生活を送るうえで体調に関する不安や心の悩みが生じた場合、保健室や学生相談室を利用することもできます。

- 利用方法

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示等によりお知らせします。指定時間に教員が研究室等で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡を取ってください。

なお、非常勤講師のオフィスアワーについては、事務局窓口までお問い合わせください。

